

出張報告届

令和5年8月7日

吹田市議会議長様

会派名 吹田党議員団
代表者氏名 後藤恭平
出張者氏名 石川 勝

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	参議院会館・衆議院会館
期間	5年7月25日から7月26日まで2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	・各省庁 官僚レクチャー ・7/25 参議院会館 （少子化対策・自治体GX） ・7/26 衆議院会館 （外交「韓国・台湾・タイ・ベトナム」）



(別紙)

●こども家庭庁の取組と、こども政策の概要について

「こどもまんなか」という基本的な考えの基に政策が作りこまれている点については、一見素晴らしく思ったが、内容を把握すればするほど、危機感を抱いた。

特に、子供の権利を尊重しすぎるがゆえの、子供の義務についての教育的観点の抜け落ちていると感じた。こども家庭庁が策定する政策に基づく実際の吹田市における実践については、細心の注意を払って監視する重要性について会派の統一見解を深めていきたい。

●自治体 GX について

本年5月に成立したGX推進法の概要について説明を受けた。

目標・戦略としてはDX・GXによる先端的な製造技術の確立と強化、そしてグローバル展開を見据えた国内マザー工場の基盤確立を、集中した投資機関で2027年を目途に進めていくとのこと。基礎自治体の役割について、及び企業の役割については、これから詳細な点が示されるだろうが、極めて部分的な施策展開になるのではないかと心配する。例えば住宅・建築物に関しても、14兆円もの予算が計上されているが、実際の予算執行について、一部の業界にはメリットがあるが、総合的な住宅政策として機能するのか、現時点では明確に想像できない。

吹田市の建物等についても、今後どのような仕様にすべきなのか、前倒しの検討が早期に求められていると感じた。

●外交について

韓国・台湾・タイ・ベトナムの各国担当の官僚からのレクチャーでしたので、現状に対するリアルなお話をお聞きする事ができた。

韓国との関係については、伊大統領の就任後良い関係が加速しているが、次の段階に上るためには、国民世論の後押しも重要になってくる。

外交は、政府関係者や国会議員だけが取り組むのではなく、むしろ日常の交流としての地方政治家の行動も重要なポイントになっている。

私としても、今後積極的に各国領事館等の方々との交流を進めていくことにする。

台湾情勢については、次期総統選挙に向けての現況や、経済面においては半導体の輸出が大幅に増加しGDPをけん引している事、1人あたりのGDPも日本に接近するレベルに達していることなどの説明を受けた。

我が国の国防の観点からも台湾は極めて重要な位置を占める事から、今後も政局や経済状況を注視していくべきだ。

タイについては、日本と同じく少子高齢化が進んでいる。また、タイへの投資額は日本が1位であり、皇室と王室の関係を礎として600年にわたる日タイ交流の歴史もある。今後も東南アジア最大規模の拠点として、関係が深まっていくと予想されることから、注目していくべきである。

ベトナムについては、日本に対する高い信頼を得ていることから、今後も経済連携などが加速していく。国際社会での地位も向上しており、政治的安定、比較的安価で優秀な労働力を有している。来日する技能実習生に関する現場の課題について、参加者から多くの質問が寄せられ、今後もこの問題については吹田市でも避けて通れない。

総論として、近隣諸国との良好な関係構築には、政府及び国会議員だけでなく、地方政治家や民間外交が極めて重要であること、また東アジアの安定が世界の安定に寄与することなど、基本的なことではあるが、今一度吹田市にできること、私にできることを定める良い機会となった。

私としては、まずは韓国領事館との関係構築に尽力する事とする。